

岩手労福協

発行
(社)岩手県労働者福祉協議会
盛岡市大沢川原2丁目2番32号
TEL (019) 654-3082
発行責任者 砂金 文昭
編集責任者 佐々木誠志

No.140 2008年1月15日発行



(明治橋上流にて)



年頭にあたって

社団法人岩手県労働者福祉協議会

会長 砂金 文昭

新年あけましておめでとうございます。

皆様におかれましてはご健勝で新しい年をお迎えのこととお慶び申し上げます。時代は依然として働くものや生活するものにとって冷たく残酷です。安倍政権から引き継いだ福田政権も腐敗体質を背負ったまま、国民のための政治から程遠く、財界と大企業の利益誘導型政治を続行しています。労働者福祉協議会はこの間、『活力ある福祉社会』と『地域共生で夢ある暮らしづくり』を合言葉に活動を行いながら、貧困な政治、遅れた福祉制度を自らの手で、改良し、少しでも勤労者がゆとりと安心の生活が実現できるようにと取り組んできました。わたしたちは憲法がめざす基本的人権を具体的に実行しようとしているのです。多重債務の問題、自助努力高負担をせまる年金・医療・介護問題、立ち遅れる地球温暖化対策など本来政治が果たすべき役割ですが、わたしたちがその不足と欠点を補っているのが現実です。

政治を変えましょう。社会がもっと勤労者や社会的弱者に日が当たるようにみんなで声を上げましょう。ワークライフアンバランスの実態にメスを入れましょう。それぞれの事業団体の特徴を生かしながら一層の充実を図っていくつもりです。

皆様方のご協力とご指導をお願い申し上げ挨拶といたします。本年もよろしくお願いいたします。

会 長	砂 金	文 昭
副 会 長	小野寺 育郎	幸 則
〃	来 内 広	義 誠
〃	軽 石 誠	志 務
専務理事	佐々木 阿部	治 男
常務理事	小 野 敏	正 誠
理 事	阿 部 山	義 夫
〃	佐々木 敏	克 彦
〃	浦 山 正	明 輝
〃	昆 原 義	夫 文
〃	菅 橋 克	博 正
〃	高 井 明	輝 文
〃	藤 井 輝	博 正
〃	三 浦 博	正 孝
監 事	八 柴 谷	一 恵
〃	吉 田	

2008 謹賀新年



“地域に根ざした 顔の見える連合運動”

連合岩手
事務局長 小野 務

新年明けましておめでとうございます。

昨年は連合運動に対し、ご理解とご支援を賜りまして深く感謝申し上げます。本年も引き続きのご支援ご協力をお願い申し上げます。

連合岩手は第19回定期大会において、砂金会長の新体制のもと「すべての働く者の連帯で、ともに働き暮らす社会をつくろう」を基本におき、「組織強化・拡大」「雇用の維持・確保」「福祉・社会保障制度の確立」等を柱として運動を進めていくこととしました。

今、全体的に回復基調にあると言われている日本経済の中であって、不安定雇用の増大や若年未就業問題など、雇用の二極化や労働者間の所得・資産格差、産業間・企業規模間、地域間格差が一層拡大など、私たち勤労国民は景気回復を実感することはできません。

組合の組織率は、「2007年労働組合基礎調査結果」によると、雇用者総数は5,565万人（前年比48万人増）で単一労働組合の労働組合員数は、1,008万人と前年比4万人の増加となった。また、推定組織率は18.1%と前年比0.1%の減少となったものの、18%台に踏みとどまった。連合組合員数は前年比10万1千人増加し8年ぶりに増加した。

働く者の社会的地位の向上と、公正な社会をつくりあげていくためには、働く仲間のさらなる労働運動への参画が不可欠である。こうした実態を踏まえつつ、組織労働者はもちろんのこと、全労働者の82%にあたる未組織労働者への対応が大きな課題である。

そのような運動の一環として、“地域に根ざした顔の見える連合運動”をめざし、一カ所で全ての相談が受けられる「ワンストップ・サービス」ができる体制を岩手県労働者福祉協議会と連携し進めているところであります。

いま、労働運動は逆風の中に置かれています。しかし、問題が山積している今こそ、労働組合の新たな出番であり、その役割と責任は大きなものがあります。

連合は、新時代の労働組合運動の構築をはかり、不屈のチャレンジ精神のもと、情熱と闘志と団結の力により、全ての働く者が連帯し、力強く前進する一年にしていきたいと思っております。

今年も一層のご支援ご協力をお願い申し上げますとともに、皆様のご健康とご多幸をお祈り申し上げます。



平和な社会と 憲法を守るために

平和環境岩手県労働組合センター
議長 来内 広幸

新年明けましておめでとうございます。昨年の世相を現す漢字は「偽」、そして流行語大賞は「どげんかせんといかん」「そんなの関係ねえ」「どんだけえ〜」などがあり、「KY」（空気を読めない）も候補に挙がりました。過去6年以上続いた小泉・安倍「構造改革」により日本社会が大きく変えられ、その中で暮らす個人がますます個別化・差別化されていることを反映していると思います。

日本社会で偽装請負や食品偽装に見られるように「自己責任・自助努力」の社会が作られる一方で、正社員を問わず弱肉強食の新自由主義経済下で不安定な労働を強いられている若者たちの労働組合が全国で組織されています。その一つの組合の手帳の中に「きつと方法はある。仲間はずいいる。あきらめないで。一本のロープを奪い合って、人をけ落として上まで登る競争をするより、人と協力して今いる場所を生きやすく変えていくほうが楽しい。知恵と力を出し合って、生きのびよう。」とあります。これを見るときに、「今の若者は・・・」という言い方がある意味で「KY」と言われるかもしれない。若者は真剣に、そして主体的に運動をつくり仲間を増やし社会を変えようと一生懸命に頑張っています。

逆に戦時中は空気を読むこともできない状況であったと、城山三郎は「一歩の距離」の作品で書いています。特攻を志願する者は一歩前へ出よと命令されるが、それは「志願」とは名ばかりで、拒否することはできない。拒否できない空気が作られる。そうした空気を無視して「志願だった」というのは歴史の改竄である。

最近の沖縄戦の集団自決の教科書検定問題もまさに歴史の改竄であり、憲法改悪、解釈改憲の空気が流れ始めています。平和な社会と憲法を守るため「どげんかせんといかん」と「関係ない」人たちにも、「どんだけえ〜」と言われる以上に大切なものと訴えたい。

皆様のご支援をお願い申し上げますとともに、ご健勝とご多幸をお祈り申し上げます。





義を見てせざるは 勇なきなり

岩手友愛会
会長 軽石 義 則

新年あけましておめでとうございます。みなさまにおかれましてはすこやかに新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。また、年末年始にあたり業務に就かれた仲間のみなさまに對しまして敬意を表します。

さて、昨年も新潟県中越沖地震や気象異常を身近に感じられる天災などにより新潟県をはじめ全国的に度重なる被害が発生しております。被災により不幸にしてお亡くなりになられたみなさまに哀悼の誠を捧げるとともに、早期の復興をご祈念いたします。また、昨年は統一地方選挙から始まり、参議院議員通常選挙そして中間地方選挙と一大政治決戦の年でありました。「亥年」はいろいろな出来事が起こる年とも言われておりましたが、まさに参議院において与野党が逆転し、国会運営に大きな変化が生まれました。唐突な政権交代から始まりました臨時国会は、会期延長による越年となり、年金問題や原油高による生活へのしわ寄せなど、国内外の経済・社会情勢は、なかなか安定の兆しを見出すことが出来ておらず、一部では経済回復の後退がささやかにはじめており、将来への不安を抱いたままでの年明けを迎えた感があります。岩手におきましては、『夢』から『希望』を持てる岩手県を築き続ける新しいリーダーに達増知事が選出され、増田前知事から引き継いだ県政を新たな視点による運営を築き始めております。

岩手県内の状況については、各界各層の地道な努力はされているものの、市町村合併の進捗状況や行財政改革の進展など思うようなものにはなっておらず、雇用状況においてはある程度改善されているように見えていますが、沿岸・県北地域と北上川流域との格差や典型労働者からパート・派遣労働者など非典型労働者へと切り替えがおこなわれ、労働条件の低下と2極化が確実に進展していると考えております。私たちが先達から受け継いだ自由にして民主的な労働運動は、連合岩手の中で確実に浸透しております。しかし、すべての運動が継承されていないことも事実であり、岩手友愛会としては可能な努力を惜しまずに早期に一体的運動ができるように合意形成をはかりたいと考えております。そのことにより、県内における労働者の結束をはかり、健全な労使関係の維持・向上はもとより政治による政策制度の実現に向けた取り組みがいっそう推進されることでもあります。

昨年を表す漢字は『偽』であります。偽装や虚偽な

どが表面化し、長年築き上げてきた信用や信頼が一瞬にして崩壊していく様をまざまざと見せ付けられました。もしそれらの職場に健全な労働組合があり、『偽』を糺すことができればと強く思いました。「偽を見て糺すは労組なり」であり、そのことこそ労働組合の価値と存在感を高めることだと考えております。

2008年を迎え、岩手友愛会としてもみなさまと力を合わせ、生まれ育った岩手県に自信を持ち、「安心・安全・安定」した社会づくりをめざしていくために、明るく元気にわかりやすい運動を着実に推進していきますので、変わらぬご指導とご支援をお願いし、年頭にあたっての挨拶とさせていただきます。



子年は 「子孫繁栄」の年

東北労働金庫岩手県本部
部長 小野寺 育 郎

謹んで新春のお慶びを申し上げます。併せて、日ごろの東北労働金庫に対しますご愛顧・ご支援に心より感謝申し上げます。

東北労働金庫となって5年目の年を迎えます。東北6県の働く人の夢と希望を実現するために充実したサービスを提供する金庫として、また東北地域内で8番目の預金残高を持つ金融機関として、事業の堅実な発展を推進しなければならないと考えております。

景気は「拡大局面」といわれながら、ここに来てサブプライムローン問題など景気拡大を阻害する要因が立ちはだかり足踏み状態が続いています。また、中央と地方の格差は依然として大きく、格差是正の政策も検討されています。さらに、原油高・物価高は働くものの生活を直撃し、働くものにとっては大変厳しい状況となっています。

こうした時代だからこそ、勤労者の声と力を集めてお互いを支え合う、労働福祉運動はますます重要になってきます。ろうきんは、「働く人の夢と共感を創造する協同組織の福祉金融機関」として、人々が喜びを持って共生できる社会の実現のために、労福協の会員の皆様と手を取り合って努力したいと考えております。

2008年の干支は「戊子(つちのえね)」です。「戊」は草木が繁茂、「子」は「ふえる」「子孫繁栄」を表すといわれます。一回り前の「戊子」は60年前、最大の団塊世代が誕生した年でもあります。2008年が働くものにとって、この干支の意味のように大きく繁栄・発展する年でありますよう祈念し、皆様のご健勝をお祈り申し上げますとともに、東北労働金庫に対します一層のお力添えをお願い申し上げ、新年のご挨拶といたします。